



アジャイル開発の実例-サイト構築プロジェクトへの適用-

ソリューション事業本部アプリケーションテクノロジー事業部
2023年7月19日

はじめに

当社ではSitecoreを利用したサイト構築プロジェクトの推進を行っています。今回はAgileセミナーとしてアジャイル開発のプロセスをサイト構築プロジェクトに適用した事例のご紹介と、CMSやLCPなどのプロダクトベース開発においてアジャイル開発のプロセスをどのように適用するのか、適用することによる利点は何かについて実際の構築事例を基に説明いたします。

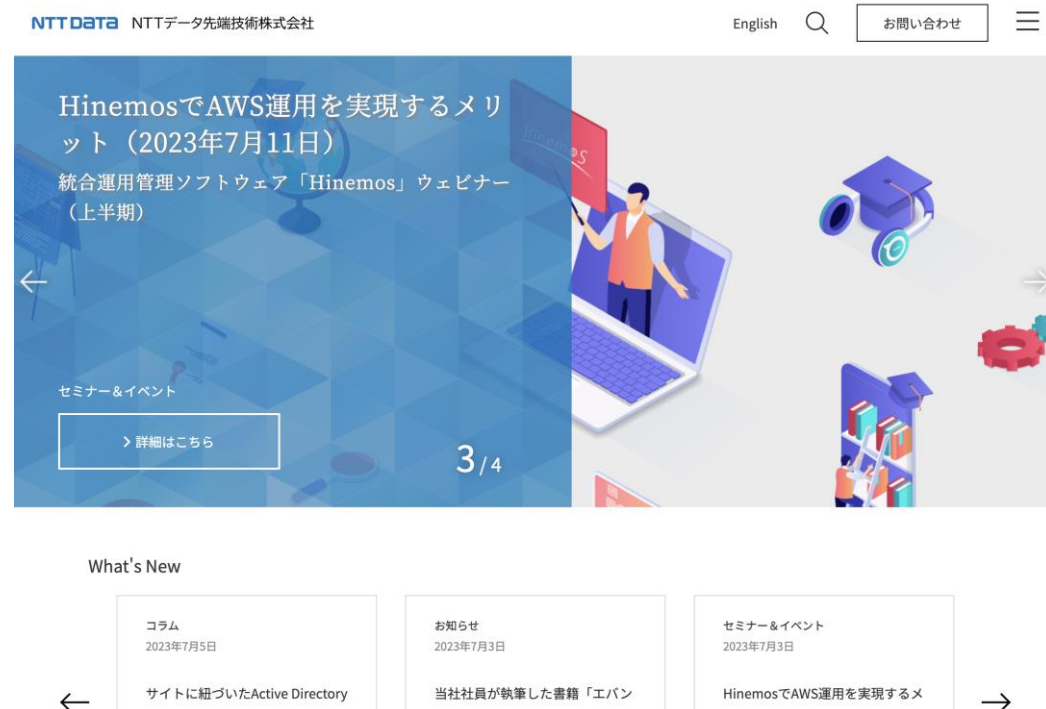
サイト構築プロジェクトにアジャイル開発は適用可能か

サイト構築プロジェクトの概要

当社はシステムインテグレーターとしてさまざまなシステムの開発、構築、運用保守に携わっております。その中のサービスメニューの一つとしてSitecoreを利用したサイト構築があります。

こちらのサービスは顧客からの要望に従い、コーポレートサイトであったりサービスサイトであったりWWW上で公開するサイトをSitecoreを用いて安価に高速に提供するサービスとなります。

多くの場合、本サービスをご利用するシーンとしては顧客の企業の情報をWWW上に公開するコーポレートサイトとなります。当社のWebサイトも本サービスを利用して構築されています。



本サービスは当社コーポレートサイトだけでなく、他にも多くの企業様のコーポレートサイト構築にご利用いただいております

サイト構築プロジェクトの特性

コーポレートサイトに着目した場合、サイト構築プロジェクトは以下のような特性を持ちます

ほとんどの場合データ
移行が発生する

システムの機能はシ
ンプル

データボリューム(ペー
ジ数)は大きい

サイト構築プロジェクトの特性

ほとんどの場合データ
移行が発生する

昨今、サイトを持たない企業はほとんど存在せず、必ず何かしらのサイトを持っている企業がほとんどです。この状態でサイト構築を行う場合、新しく一から開発するという方針でなく既存のサイトから新しいサイトを構築します。このため、既存のサイトから新しいサイトへのデータ移行が発生します

システムの機能はシ
ンプル

コーポレートサイトの目的として多くの人にブランドイメージ、企業の情報を届けるというミッションがあります。このため、ログイン機能などの閲覧者を絞る方向の機能はあまり実装されず、シンプルな機能でコンテンツ、データをそのまま提供することが望まれます

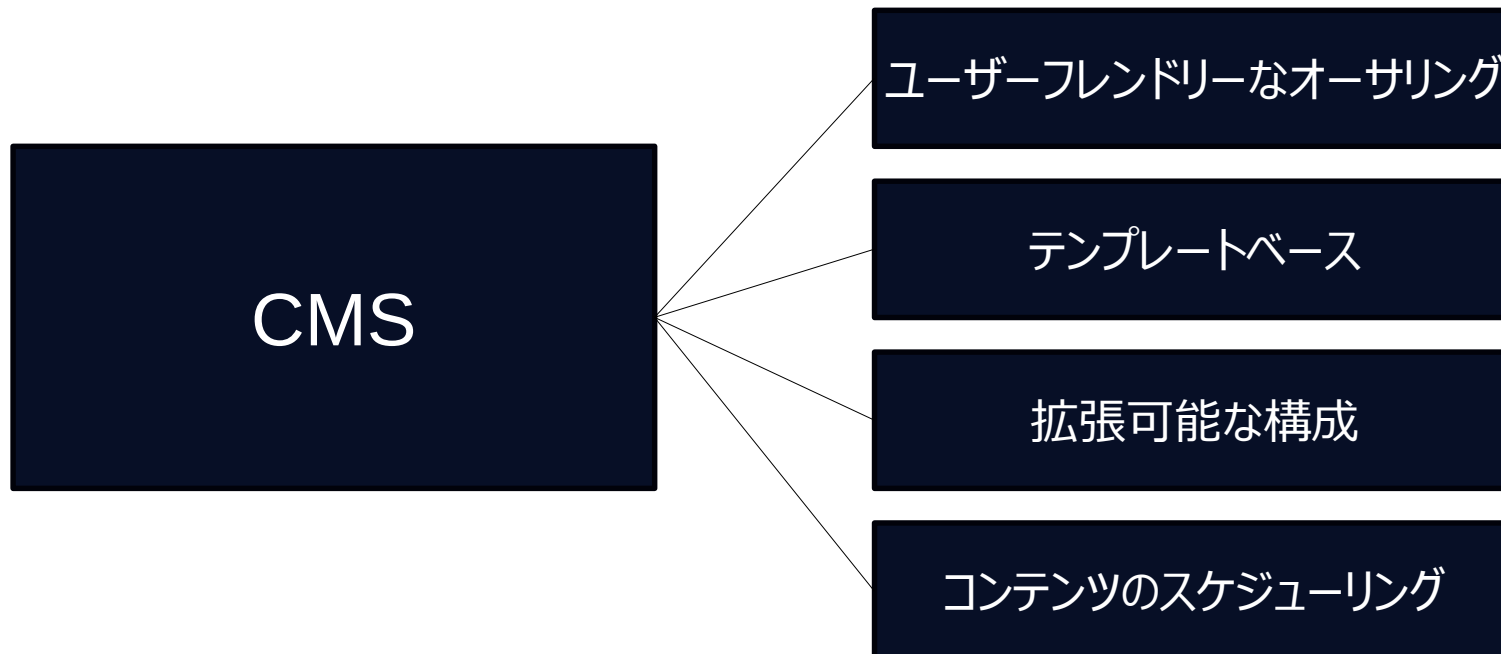
データボリューム(ペー
ジ数)は大きい

コーポレートサイトの暗黙的な目標として、企業が持っている情報を可能な限り外部に出し、閲覧者を増やしていきたいというものが 있습니다。このため、できる限りコンテンツは多くという要求が発生し、サイトが保持するコンテンツの総量は多くなっていきます

CMS(Content Management System)の活用

当社のサイト構築プロジェクトでは、サイト構築のためにSitecoreという商用CMS製品を利用しています。当社だけでなく、コーポレートサイトの構築には一般的にCMSが利用されます。

CMS自体の定義は広義、狭義で色々と定義がありますが、サイト内のページをコンテンツという単位で管理することによってサイト全体の管理を容易にし、HTMLの知識がなくともページの大量生産を実現可能にするソフトウェアとなります。



CMSの概要と変遷

CMS自体は古くからあり、1990年代後半から利用されてきました。2000年代に入るとCMSを利用することが常態化し、今CMSは次のステップとしてパーソナライズに向かっています

CMS黎明期

CMSの一般化

新しいCMS

ASPへのFTP転送やHTML
直接編集の代替として

Webブラウザ上で完結するサ
イト編集

データプラットフォームやパーソ
ナライズプラットフォームとして



XOOPS: CMS黎明期に利用されたCMS。基本的なCMSの機能を全て備える



Sitecore: Windowsベースの商用CMS。パーソナライズに力を入れている



Adobe Experience Manager: Linuxベースの商用CMS



Wordpress: 古くからあり、最も普及しているOSS CMS



Drupal: 古くからあり、拡張機能が豊富なOSS CMS



Joomla: 古くからあるJavaベースのOSS CMS



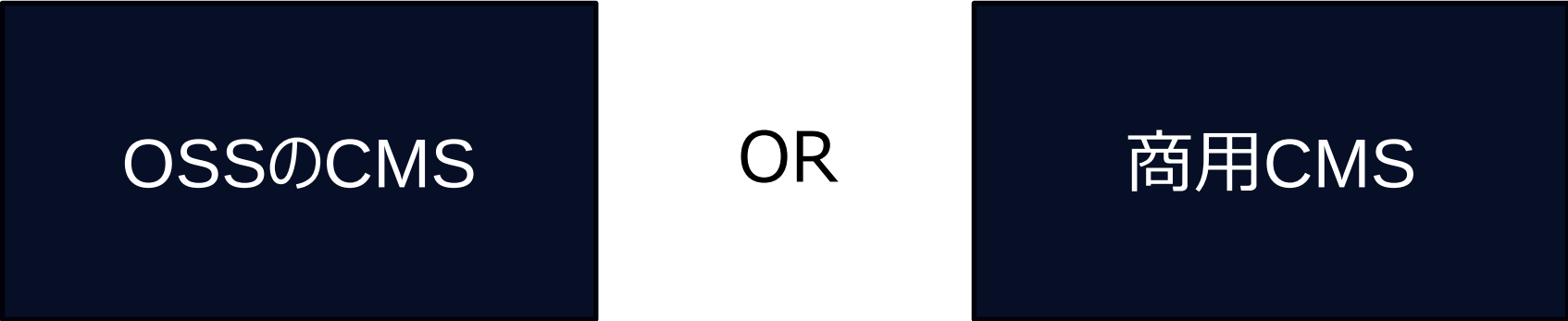
Contentfull: SaaS型ヘッドレスCMS



Strapi: GraphQL対応ヘッドレスCMS

商用CMSとOSS CMS

CMS界隈はWordpressが寡占状態となっており、この影響でCMSはOSSであるというイメージが強い状況です。この中でSitecoreやAdobe Experience Manager、Heartcoreなどの商用CMS製品もあります。



OSSのCMS

OR

商用CMS

どちらを利用すべき？

商用CMSとOSS CMS

両プロダクトでのサイト構築の経験から、機能としては**商用CMSもOSS CMSも大きな違いはありません**（非機能面では商用CMSの方があらかじめ大量のコンテンツが格納されることを想定した作りになっているといった違いはあります）

商用CMSとOSSの大きな違いは商用CMSは**OOTB**になっているという点です。

OOTBは“Out of the Box”の略語で、製品やソフトウェアが購入後すぐに使用できる状態、つまり特別な設定やカスタマイズを必要とせずにそのまま使用できる状態を指します。

例えば、OOTB機能とは、ソフトウェアやシステムが提供するデフォルトの機能のことを指します。これは、追加のプログラミングやカスタマイズを必要とせずに、ソフトウェアをインストールした直後から利用できる機能を指します。

OOTBは、製品がユーザーフレンドリーで、すぐに使い始めることができることを強調するために使用されます。また、OOTBソリューションは、カスタムソリューションに比べて導入時間が短く、コストが低いという利点もあります。しかし、一方で、OOTBソリューションは一般的なニーズに対応しているため、特定のビジネス要件や複雑な要件に対応するためにはカスタマイズが必要となる場合もあります。

商用CMS、OSS CMSのどちらが優れているかということではなく、プロジェクトの要求に応じて適材適所で決めていくことが必要になります。経験上、要求されている機能が複雑な場合はOSS CMSの方が適用がやりやすく、シンプルな構成でコンテンツボリュームが多い場合は商用CMSの導入がやりやすいと感じています。コーポレートサイトは前出の通りシンプルかつハイボリュームになるので商用CMSの適用がやりやすい分野になります。

CMSとアジャイル開発

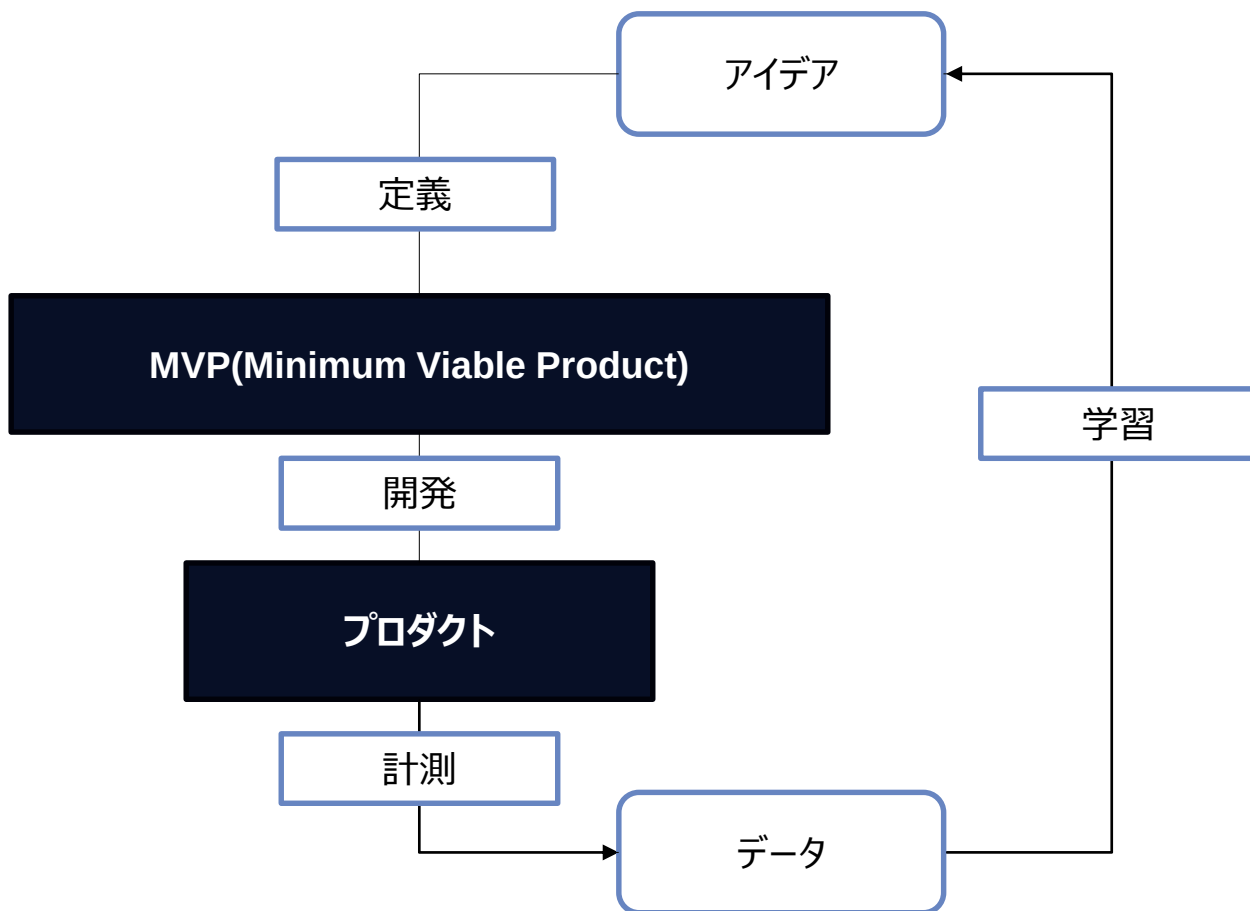
サイト構築プロジェクトを推進する際にCMSを利用することはほぼ必須になっています。ではCMSを利用したサイト構築プロジェクトをアジャイル開発のプロセスで進めることは可能でしょうか

CMSを使ったプロジェクトはアジャイル
開発に向く？ 向かない？

CMSを使ったプロジェクトはアジャイル開発に向いていると考えます。これはCMSを利用するプロジェクトではMVPの提供が容易になるためです

アジャイル開発とMVP

MVPはMinimum Viable Productの略で必要最小限の機能を持った製品のことです。開発の初期段階で大量の時間とリソースを投入するのではなく最小限の機能を持った製品を早期に提供し、ユーザーのフィードバックや市場の反応をもとに改善や新機能の開発を行う製品開発アプローチとなります



この図では、アイデアから始まり、そのアイデアを定義してMVPを作り出します。そのMVPを開発して製品にし、その製品を測定してデータを得ます。そのデータから学び、新たなアイデアを生み出すというサイクルを示しています。

Generated by ChatGPT

MVPが必要な理由

アジャイル開発で最も重要なフィーチャーはユーザからのフィードバックを受けるという行為になります。アジャイル開発でのアプローチは原則如何に早く、多くユーザからのフィードバックが受けられるかに着目してプロセスが組み立てられています。MVPによるアプローチもいち早くユーザからのフィードバックを得るためにアイデアを具現化する必要最小限の機能を早急に投入することとなっています。

サイト構築プロジェクトにおけるCMS製品は要求によってはそれだけでMVPになりえるものとなります。

CMS製品を導入すると

- サイト内のページ(コンテンツ)を編集、閲覧するためのオーサリング機能
- 上記のオーサリングを行うためのユーザ管理機能
- 作成したコンテンツを公開するまでのワークフローやスケジューリング機能
- ページ(コンテンツ)に組み込むための部品やテンプレート

などが特に開発を行うことなく手に入れることができます。既にサイトとして動く土台がある状態でアジャイル開発を進めることができ、アジャイル開発で起こりがちな最初のイテレーション(Sprint)での成果物が出ないといった問題を回避することができます

サイト構築プロジェクトとアジャイル開発

ここまでで一旦サイト構築プロジェクト並びにアジャイル開発について整理します

サイト構築プロジェクトについて

- サイト構築プロジェクトではコーポレートサイトなど、シンプルで大量のコンテンツがあるサイトを構築するプロジェクトが多い
- サイト構築プロジェクトではCMSソフトウェアを利用してサイト構築を行うことがほとんど
- 利用するCMS製品は商用CMS、OSS CMSとがあるが、どちらも大きな違いはない

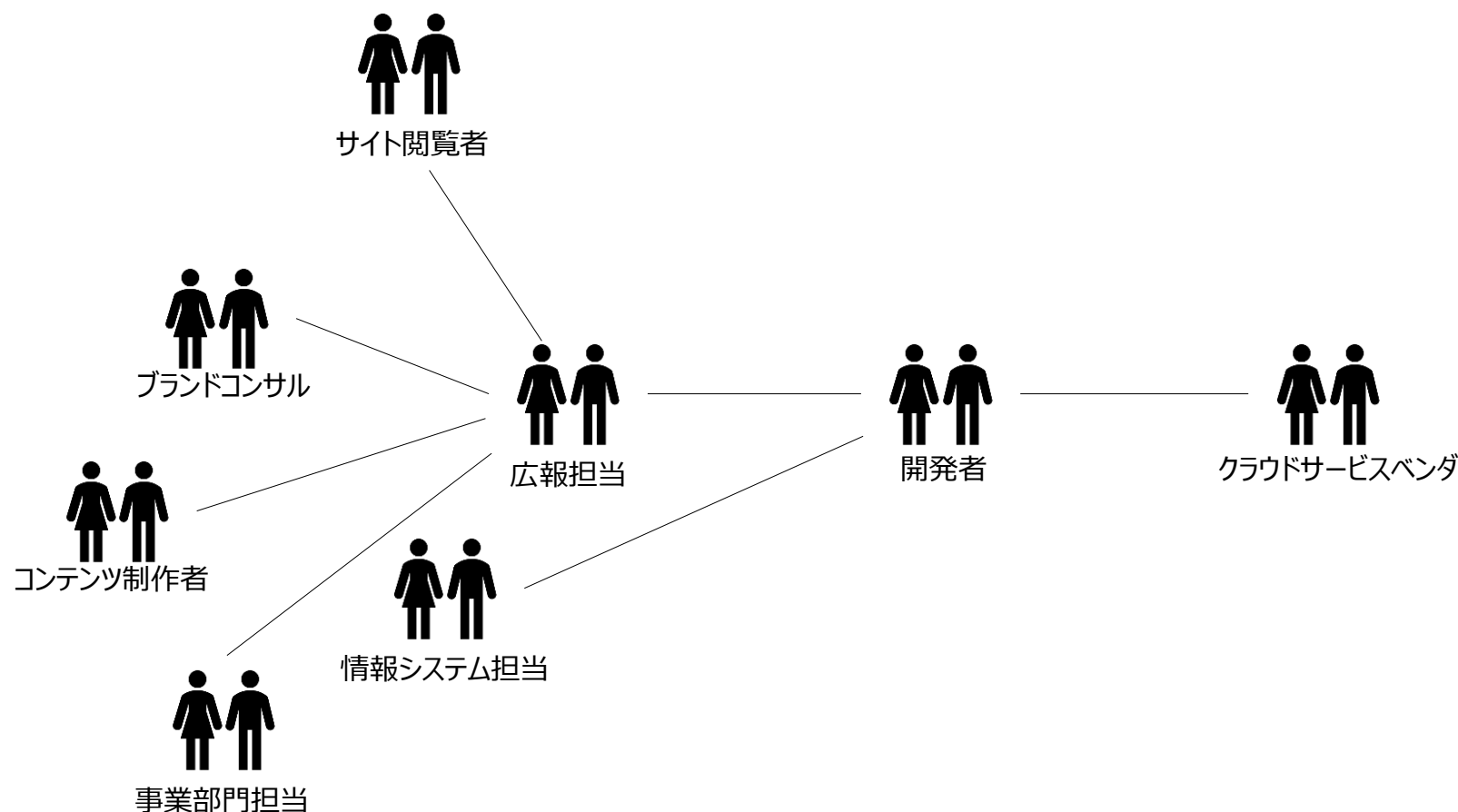
サイト構築プロジェクトとアジャイル開発について

- サイト構築プロジェクトとアジャイル開発は親和性が高い
- サイト構築プロジェクトではMVPの提供が容易なため、ユーザからのフィードバックを受けやすい
- サイト構築プロジェクトでは成果物がサイトであったり、サイトを運営するためのUIになるため、利用者やエンドユーザが直感的に理解や良し悪しの判断がやりやすい

サイト構築プロジェクトへのアジャイル開発適用事例

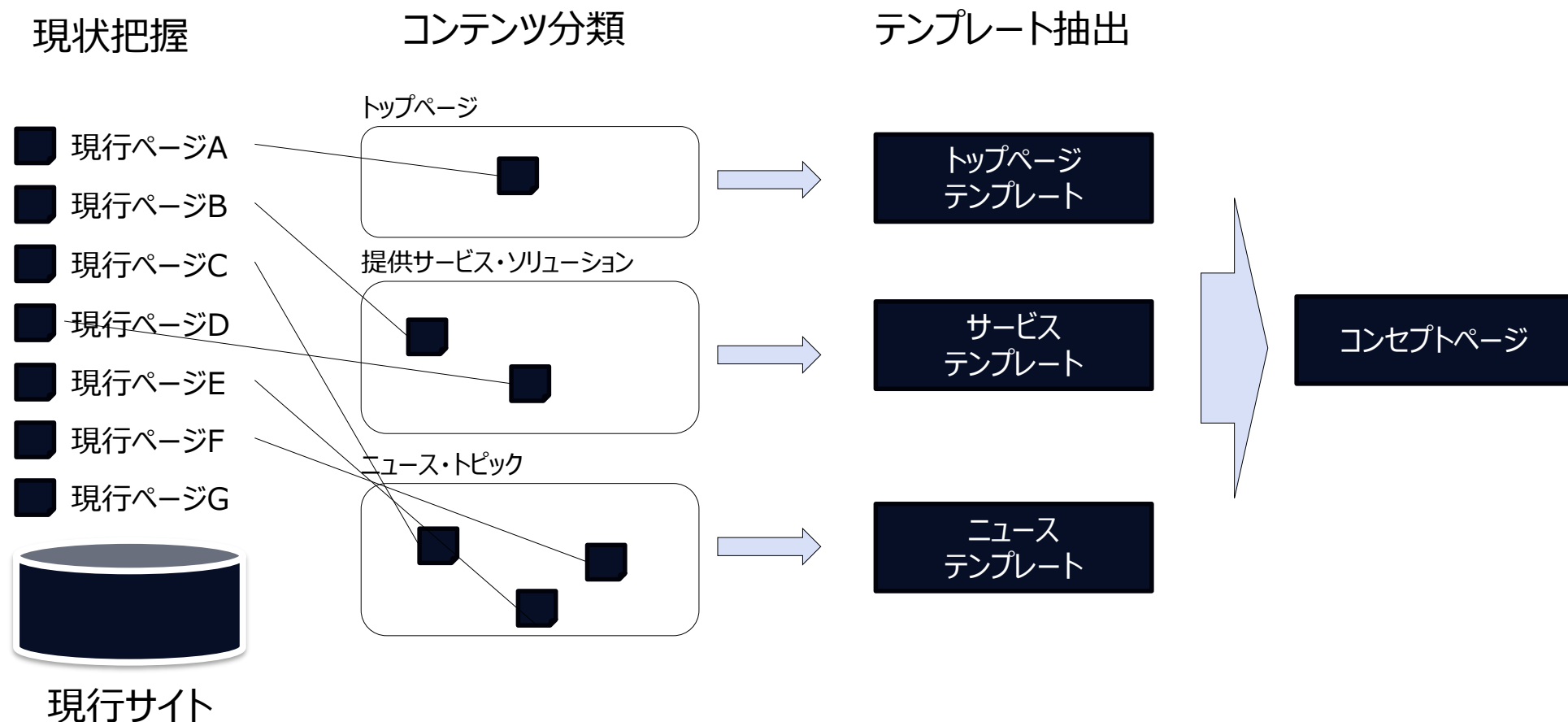
サイト構築プロジェクトにおけるステークホルダ

サイト構築プロジェクトでは経験上、図のようなステークホルダが登場します。コーポレートサイトの直接の関係者は顧客企業の広報担当となりますが、同時にコーポレートサイトは企業の顔になるためブランドイメージのためのコンサル部隊であったり、コンテンツ制作者などがいたりします。通常のプロダクト、システムとの大きな違いはサイト閲覧を行うエンドユーザ以外にもコンテンツを継続的に編集するステークホルダが存在する点となります



コンテンツの分類とコンセプトページ

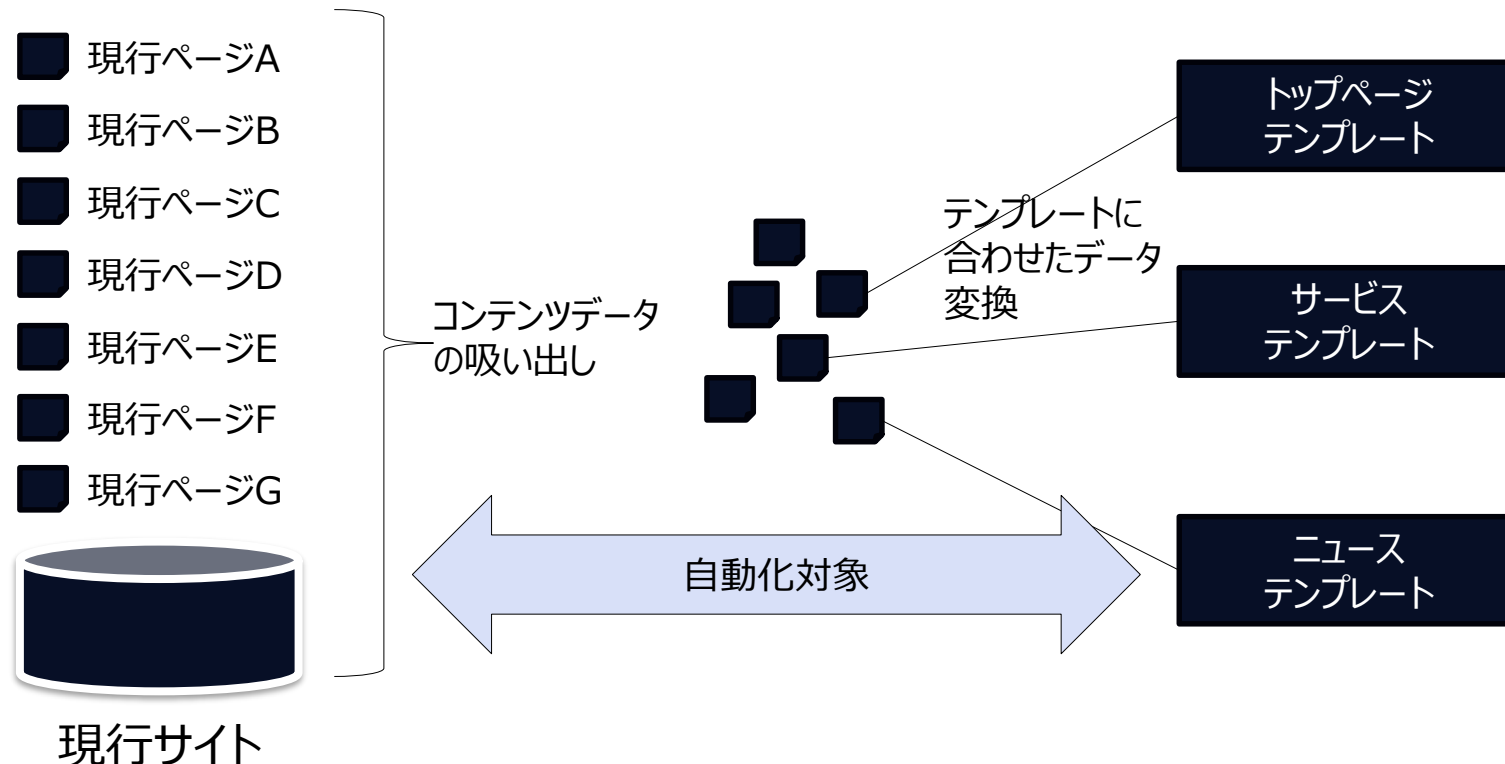
サイト構築プロジェクトで実施する作業を具体的に見ていきます。まずは現行サイトの情報や顧客要望からどのようなコンテンツが必要かと、そのコンテンツがどのジャンルに分類されるかを整理していきます。その後分類したコンテンツごとに利用するテンプレートを抽出していきます。このテンプレートがMVPとなりSprintごとにテンプレートを提示し、このままで良いのか改善の必要があるのかのフィードバックを得るようにします



コンテンツ移行のアプローチ

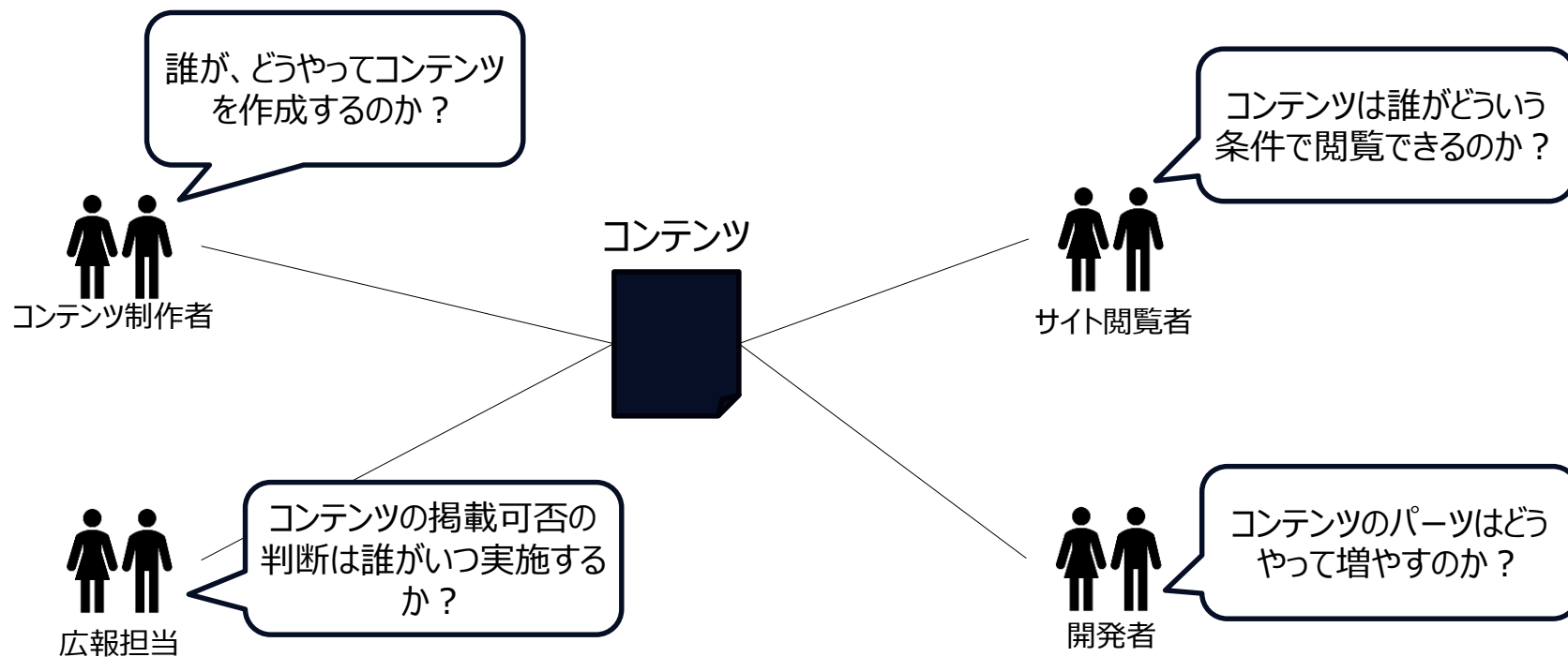
新サイトを構築するからといって現行サイト(旧サイト)のコンテンツを破棄するということは稀で、多くの場合現行サイトから新サイトにデザインを一新した形で移行したいという要望が発生します。また、前出の通り新サイトでページをどのようなパーツをどのような配置で表示するかというテンプレートは顧客要望やフィードバックを受ける対象となるため頻繁に変更される可能性があります。

このような理由からコンテンツ移行作業は複数回実施される可能性が高い作業となります。また、一般的に移行するコンテンツは膨大な量になるため、毎回手動で実施することは現実的ではありません。サイト構築プロジェクトにおいて、このコンテンツ移行は最優先で自動化すべき対象となります。



コンテンツの編集とワークフロー

ステークホルダの部分で提示したように、サイト構築プロジェクトのエンドユーザはサイト閲覧者だけでなくコンテンツ編集者も。ガバナンスについても検討することが多い



コンテンツ制作業務に関する統制(ルール策定)



非機能要求に対する対応

サイト構築プロジェクトでは多くの場合コーポレートサイトの構築であり、この場合WWW上に構築したサイトが公開されます。

このため、他の内部向けサービス開発とは異なり以下の非機能要求に関して注意する必要があります。

- サイトの停止が発生するとブランドイメージの失墜につながります。このため、サイト停止が発生しないよう冗長構成をとる、DR対応が可能な構成にするといったことが求められます
 - これは内部向けサービスでも要求が出る
- 世の中は思った以上に攻撃で溢れています。コーポレートサイトの特定上保持しているデータは公開可能データになることが多く、機密情報漏洩のリスクは低いですがDoS/DDoSによってサイト停止に追い込まれる可能性がありますので、対応が必要です
- 脆弱性スキャンは1日一回やられると考えておいた方が良いでしょう。このためソフトウェアのバージョンアップやパッチ適用は必ず検討し実施する必要があります

ほとんどインフラで対応すべき課題ですが、攻撃に対する防護はインフラだけでなくソフトウェアやCMS上に載せるコンテンツでも考慮すべき課題となります

スプリント計画の立て方

サイト構築プロジェクトにおけるスプリント計画の例を以下に提示します。CMSを使った開発では動くものの提供を早めることができる点と、環境構築や移行、編集向け機能とコンテンツ制作などを同時並行で実施することができます



プロダクトベース開発の利点

前出の通りCMSのようなプロダクトを基点として開発するプロダクトベース開発の最も大きな利点はMVPの提供速度にあります。プロダクトをインストールした段階で基本的な機能が揃った状態からスタートになりますので、アジャイル開発で重要な仮説検証と効果測定がプロジェクト開始直後から実施できるようになります。



サイト構築プロジェクトはアジャイル開発に向く？

サイト構築プロジェクトはCMSといったプロダクトを利用することが一般的であり、プロダクトベース開発はMVP提供を加速できるという点でアジャイル開発に向いた方法と言えます

プロダクトベース開発はアジャイル開発
のプロセスを導入しやすい

ただし、サイト構築プロジェクトではアジャイル開発に向かない点もあります。その一つが、サイト構築プロジェクトでは政治的理由によってリリースタイミングが固定されることが多い点になります。例えば現行サイトが1000ページあり、これを新しいCMSに載せ替えるといったプロジェクトを考えると、全てのページの移行が完了するまでリリースをするという判断をすることが難しいといったことがあります

サイト構築プロジェクトはスケジュールが
固定されやすい

サイト構築プロジェクトの今後

コーポレートサイト界隈のトレンド

これまで長くコーポレートサイトの構築プロジェクトに携わってきましたが、近年サイトの要望としてパーソナライズが着目されるようになってきています。

これまでサイト閲覧者の情報はGoogle AnalyticsやGoogle Tag Managerなどサードパーティーのサービスを利用して蓄積することが多かったのですが、サードパーティCookieの制限などの動きもあり、CMS製品自体が閲覧者の情報を収集・蓄積する方向に向かっています

MA: Marketing Automation

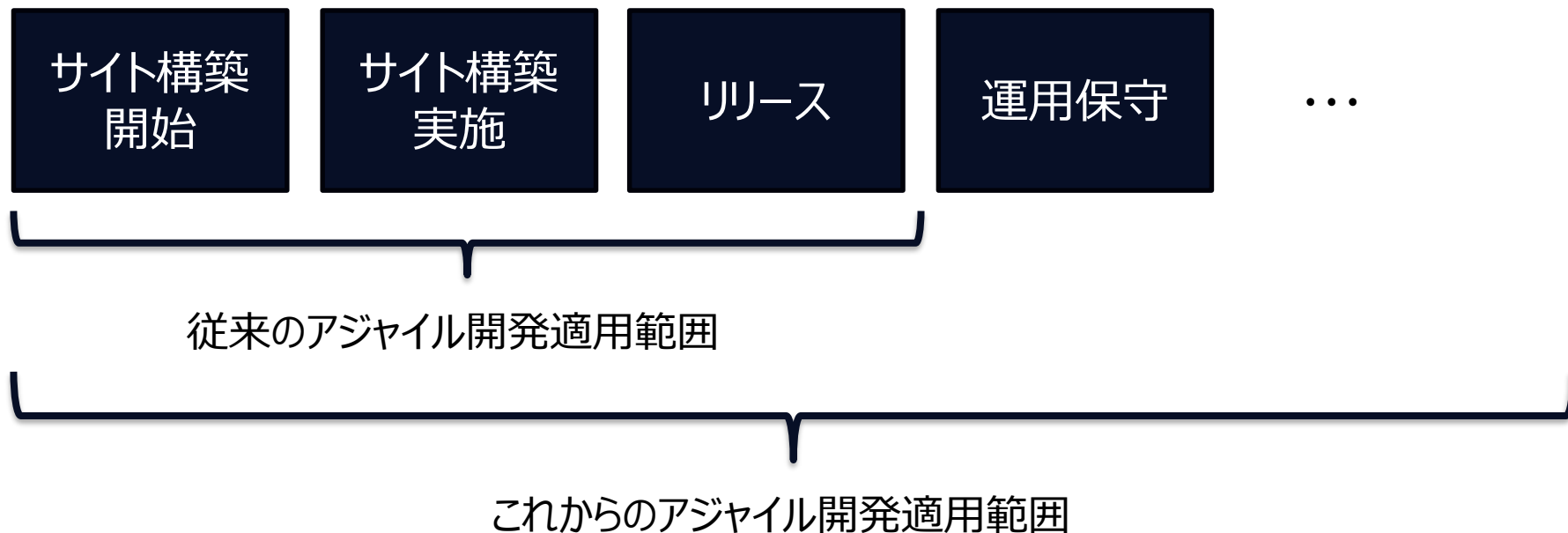
閲覧者の情報を蓄積し、パーソナライズしたマーケティング活動を行う

CDP: Customer Data Platform

顧客の情報を一元管理し効果的な顧客エンゲージメントを実現する

リリースに対する変化

サイト構築プロジェクトではこれまでサイト構築(移行)が完了し、リリースを行うと後は運用保守のフェーズとなり、健全な運営がなされているかを確認するのみでした。ただし、前出のCDPなどが中心となると公開したサイトで収集した情報から次の一手をどう打つかという点がより重要になってきます。このため、アジャイル開発における仮説検証と効果測定が開発時だけでなくリリース後も適用されていきます



リリース前開発 < リリース後開発
という逆転現象が発生する

コーポレート「サイト」

今回、サイト構築プロジェクトに対するアジャイル開発の適用について説明してきました。従来型のサイト開発においても、顧客接点を重視した今後のサイト開発においてもアジャイル開発のプロセスを導入することはサイト構築において十分な効果があると考えています。また、コーポレートサイト自体もその目的や実現方式は今後変化していくと考えられます。こういった変化に追従していくために、よりアジャイル開発の重要性が増していくことは疑う余地はないと考えています

コーポレートサイトでは企業が持つデータがAPIとして公開、活用されていく

PCサイトは非主流となりモバイルファースト、SNSや動画配信が中心になっていく

組織だけではなく、組織に所属する個人に対してフォーカスされていく

